



OpenChain Japan WG 第31回全体会合

第7回 ライトニングトーク (LT)

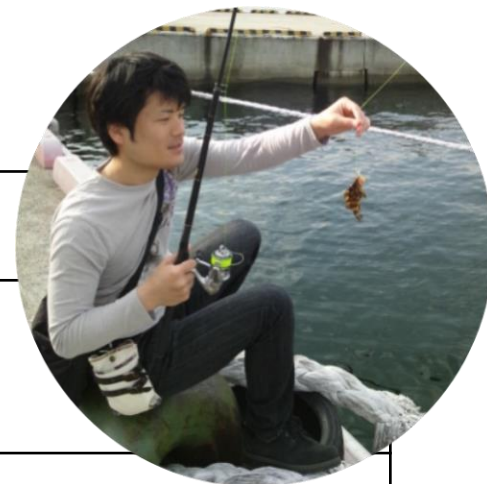
(OSSコンプライアンスにおける各社のケーススタディ)

MC紹介

氏名	加藤 慎介 (かとう しんすけ)
所属	パナソニックホールディングス株式会社 プラットフォーム本部
経歴	<p>入社以来 OSの開発に従事</p> <ul style="list-style-type: none">• デジタルTVでの、独自OSからLinuxへの移行• 携帯電話のLinux移行、自社チップへのLinuxのポーティング、Linux Kernel 部分の性能改善• Android製品の開発 <p>その傍ら2002年からOSSコンプライアンス対応に従事。社内向けのOSS対応マニュアルの作成やOSSセミナー講師、社内のOSSライセンス対応のコンサルティング等を実施</p> <p>現在は、パナソニックグループ全体のソフトウェア開発力強化を推進</p>



MC紹介



氏名	島 直道 (しま なおみち)
所属	ソニーグループ株式会社 技術戦略部 オープンソース推進課
経歴	<p>組込機器向けのデバイスドライバ開発 (但しほぼ組込向けWindows)</p> <p>その傍ら2010年～OSSコンプラツールの販促</p> <p>2014年10月～品質保証部門に異動、OSSライセンス遵守推進、OSSライセンスコンプラセミナー講師、OSSスキャナツール活用推進、OSSライセンス対応の社内コンサル等</p> <p>2023年2月～OpenChain Japan WG FAQ-sg 主査</p> <p>2023年3月～OpenChain Japan WG クラフトビール部 部長 奴ら1号</p> <p>2024年3月～OSP0スタッフ、OSSライセンスコンプラ関連の社内研修担当</p>

ライトニングトーク活動概要

OpenChain Japan WG では、全体会合で Lightning Talk (LT) 形式で、各社のケーススタディを共有してきました

これまでに開催したLTのテーマ

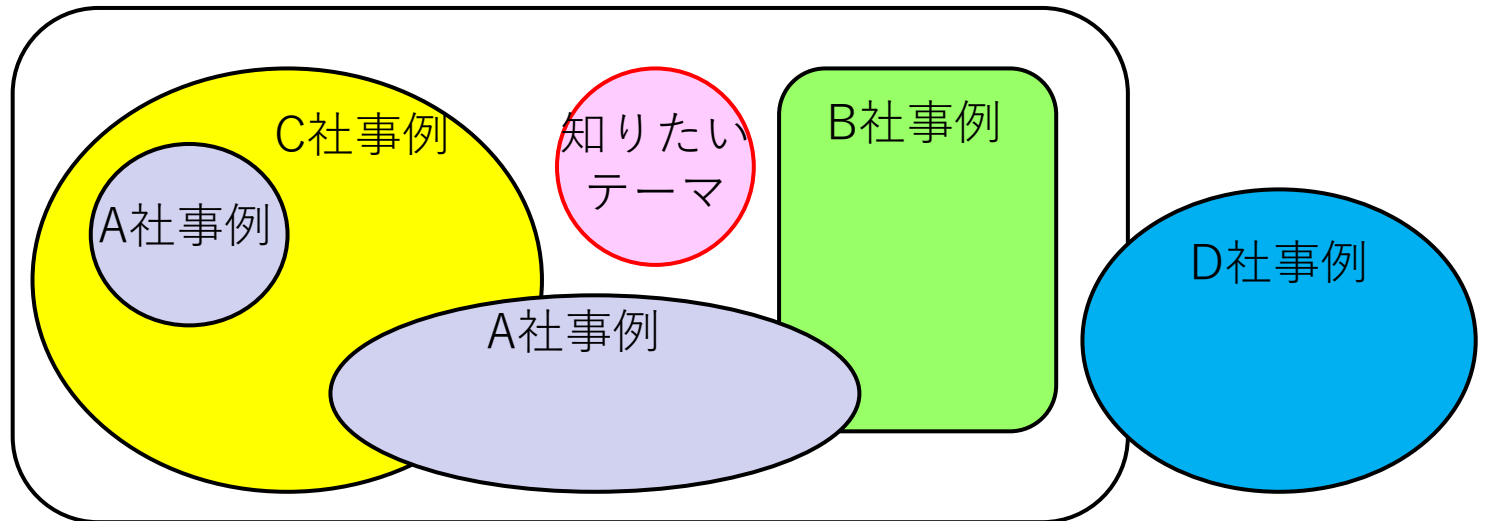
No	テーマ	開催日
#01	OSSコンプライアンス～組織・体制面～	2018/04/19
#02	OSSコンプライアンス関係の社内教育	2018/06/13
#03	OSSコンプライアンスの価値 (なぜOSSコンプライアンスに取り組むの？取り組んでいるの？)	2018/08/31
#04	OSSコンプライアンス活動 拡大時のポイント	2019/12/19
#05	OSSに関するポリシー	2021/07/29
#06	SBOM対応、どうする？どうしてる？いま、社内はどんな状態？	2023/10/05

元々は、「私（加藤）が知りたい」 がスタート

2017～2018年 当時・・・

- 社内でのOSSコンプライアンス推進に役に立ちそうな他社ケースを収集
- 主なアプローチ
 - セミナーに行って他社の方の話を聞く
 - OSS系カンファレンスで情報交換する
- 情報は得られるが、断片的

某社の
OSSコンプライアンス推進



事例集めのアプローチ

想定（2018年当時の私（加藤）の勝手な思い）

- 私と同じように思っている人もいるのでは？
- テーマに沿ったケーススタディがあると役に立ちそう
- OpenChain Japan WG での情報交換が活発化してきて、ケーススタディの情報交換も出来そうな機運を感じる！
- なにより、出来たらきっと楽しい！

**Japan WG 全体会合での
「ケーススタディ Lightning Talk」
を アジェンダ提案**

今回のLTテーマ

OSSコンプライアンス～組織・体制面～ **Revival**

- 約6年前に実施した第1回LTのテーマをリバイバル
 - OSPOやSBOMといったワードの盛り上がり、生成AI/LLMの爆発的な広がり、Log4Shell等の重大な脆弱性の発見、US EOやEU CRAの発行、コロナ禍…などを経て各社のOSSコンプラ推進/OSPOの必要性や役割、体制やコミュニケーションの在り様も変わってきたのでは？
 - いま改めて初回のテーマを扱うと変化が見えたりするのでは？
- 各社の体制や課題をケーススタディすることでOSPOを作ろうとしている組織や、体制強化を図ろうとしている組織にとって参考なるはず。
- “Your OSPO is not my OSPO.” なので万人受けする正解はなくあくまで参考。

OSSコンプライアンス ～組織・体制面～

会社名		Web掲載	OK / NG
記載者		記載日	2024/06/27
現状（記入日時点）			
組織	専属組織あり（OSPO） / 専属組織あり（not OSPO） / バーチャル or コミュニティ型 / 担当者レベル / Alone / 正式な業務として / ボランティアとして （備考:		
人数	100人以上 / 数十人 / 10～20名程度 / 数名 / ひとり / ゼロ （備考:		
当社のポイント			
課題			
備考			

OSSコンプライアンス ～組織・体制面～

Web掲載可否を記載ください
どちらかの文字を消すのでもOK

会社名	某社	Web掲載	OK / NG
記載者	匿名	記載日	2024/06/27
現状（記入日時点）	今の状況の提示、と、ある程度選択肢のなかから選ぶことで、似ているケースの判別に使えれば、と考えました		
組織	専属組織あり（OSPO） / 専属組織あり（not OSPO） / バーチャル or コミュニティ型 / 担当者レベル / Alone / 正式な業務として / ボランティアとして（備考：）		
人数	100人以上 / 数十人 / 10～20名程度 / 数名 / ひとり / ゼロ（備考：）		
当社のポイント	ちょっとOSSライセンスを知ってる私がボランティアで相談を受けている		
課題	ボランティアベースでは回らなくなってきており正式な業務として認めてもらうところから手を付けたいが味方探しで難航している		
備考	同じように草の根から活動を広げてきた苦労談や、味方探しのコツなどに関してアドバイス頂けたらありがたいです		

事例ページは CC-BY-ND-4.0
にしています。

ページの下半分は自由記載欄、としました。

このテーマ
第1回LTで扱ってました

6年間の変化は見られるのか？

第1回LTサマリ (1 of 2)

■ 課題

■ ヒト・モノ・カネ

- 予算面
- 部門間のバラつき
- 体制・活動の維持・強化
- 人の巻き込み
- 組織化
- 社外への展開
- 社内外含むコンプラ意識向上
- 人依存・属人的
- 海外対応

■ スケーリング

- OSSの大規模化
- 自動化
- コンプライアンス情報・セキュリティ情報の一元管理

■ その他

- OSS取得時の審査が重い
- サプライチェーン全体のコンプラ担保

第1回LTサマリ (2 of 2)

■ キーワードの使用回数等について (母数: 10組織)

■ OSPO

- 自称している組織→0
- OSPO (という文言) の登場回数→1

■ SBOM/SPDX

※テーマ上、SBOM運用等の具体的なオペレーションまで語る時間的余裕はないものの

- SBOM (という文言) に関して言及した組織→0
- SPDX運用に関して言及した組織→1

さて、このあたりの変化も見ながら
さっそくLTを始めていきましょう！

以下 LT発表資料(公開可のみ) および、統計情報まとめ

LT（OSSコンプライアンス～組織・体制面～ **Revival**）まとめ

■ 事例数: 計13社（うち8社公開可）

業種	数
電気機器	7
情報・通信業	3
機械	1
精密機器	1
輸送用機器	1

LT (OSSコンプライアンス～組織・体制面～ Revival) まとめ

OSSコンプラ組織について	数
専属組織あり (OSPO)	7
専属組織あり (not OSPO)	1
バーチャル	5
担当者レベル	1

OSSコンプラ業務について	数
正式な業務として	5
ボランティアとして	1

OSSコンプラ組織の規模について	数
100人以上 (専属組織は各社数名程度)	1
数十人	1
10～20人	4
数名	6

OSSコンプライアンス ～組織・体制面～

会社名	某社	Web掲載	OK / NG
記載者	匿名	記載日	2024/06/27
現状（記入日時点）			
組織	専属組織あり（OSPO） / 専属組織あり（not OSPO） / バーチャル or コミュニティ型 / 担当者レベル / Alone / 正式な業務として / ボランティアとして （備考: ）		
人数	100人以上 / 数十人 / 10～20名程度 / 数名 / ひとり / ゼロ （備考: ）		
当社の ポイント	"OSCO"として10年以上の実績		
課題	"OSCO"から"OSPO"になるには何をすればいい？		
備考	特になし		

OSSコンプライアンス ～組織・体制面～

会社名	国内メーカー系Sier	Web掲載	OK(匿名希望)
記載者	匿名	記載日	2024/06/20
現状（記入日時点）			
組織	専属組織あり（OSPO） / 専属組織あり（not OSPO） / バーチャル or コミュニティ型 / 担当者レベル / Alone / 正式な業務として / ボランティアとして（備考： ）		
人数	100人以上 / 数十人 / 10～20名程度 / 数名 / ひとり / ゼロ（備考： 専属組織 + 専門家のジョイントチームとして）		
当社のポイント	社長のバックアップにより予算化した全社的な取り組みとして、生産技術部門、QA、知財、OSS専門部隊のジョイントチームが支援するOSS管理プロセスを推進中(リニューアル後、2年目)。開発部門に対して提供しているサービスは、OSSリスクの早期判断、SCAツールを用いたOSS調査、脆弱性やEOLの通知、利用実績のあるOSSを検索できる仕組み、など多岐にわたる。OSS活用に関するeラーニングや手順書、レポート作成ツール等も充実している。		
課題	解析の質とコストのトレーサビリティ。コスト問題。OSSチェックのターンアラウンドタイム。繁忙期と閑散期のタスク標準化。		
備考	全社レベルの通達、開発標準への組込み、教育やセミナー等の啓蒙活動などを通じて浸透させてきた取り組みで、2年目はうまく回るようになってきている。が、平和すぎて不安(プロセス上の抜け道や、大きなトラブルの種が無いのか、確認する仕組みが必要かもしれない)。		

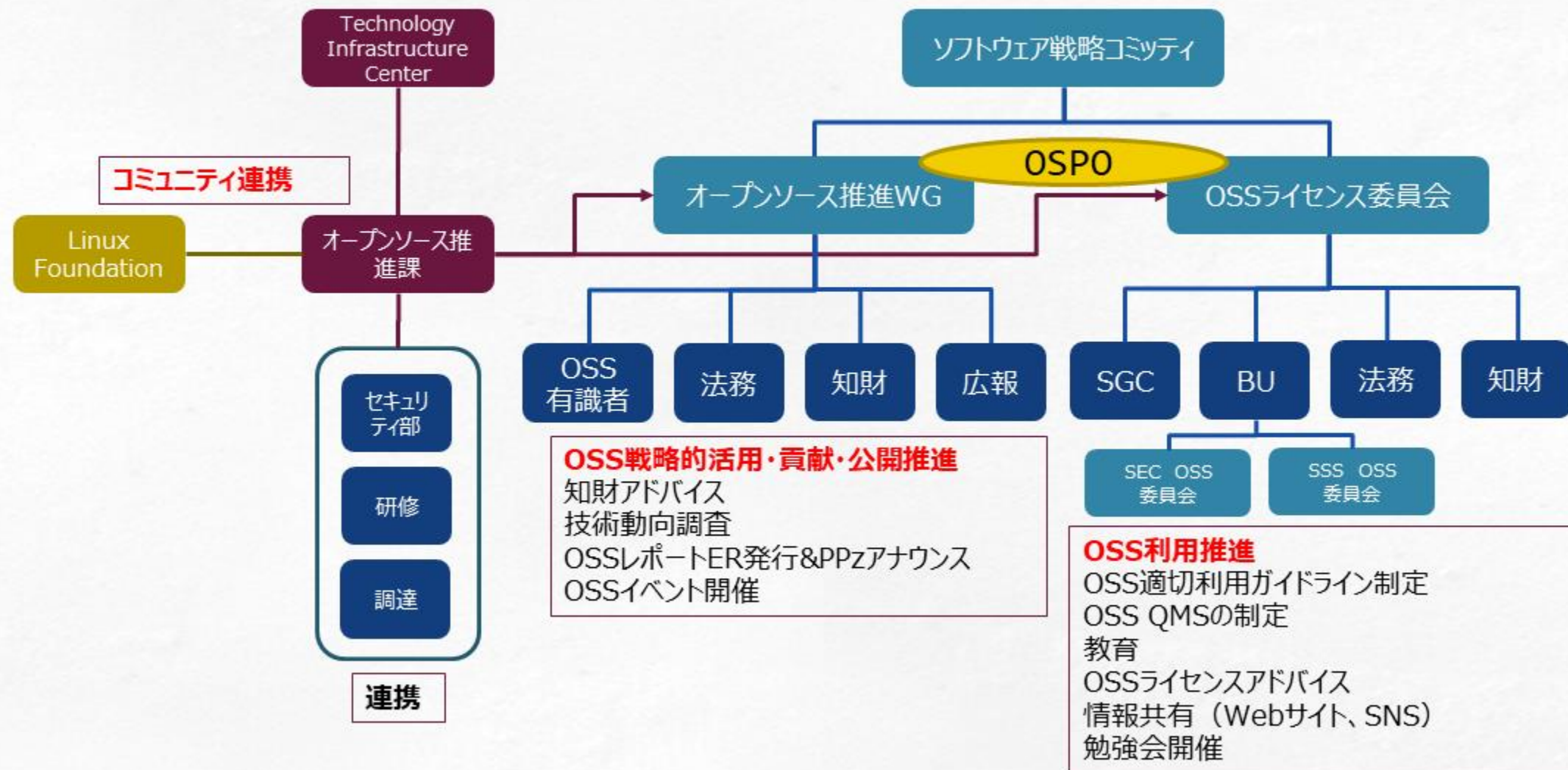
OSSコンプライアンス ～組織・体制面～

会社名	国内自動車OEM	Web掲載	OK / NG
記載者	匿名	記載日	2024/06/17
現状（記入日時点）			
組織	専属組織あり（OSPO） / 専属組織あり（not OSPO） / バーチャル or コミュニティ型 / 担当者レベル / Alone / 正式な業務として / ボランティアとして （備考:		
人数	100人以上 / 数十人 / 10～20名程度 / 数名 / ひとり / ゼロ （備考:		
当社のポイント	<ul style="list-style-type: none">・ 量産製品にて多くのOSSを採用している事もあり、今年度から統括部内にOSPOを設立・ 現状は少人数の体制のため、小回りがきく・ OSPOをトリガーにして、統括部内でのソフト人財育成の活動を開始・ OSSコミュニティへの新規参画及び各種イベントのスポンサーシップを継続して実施		
課題	<ul style="list-style-type: none">・ 活動規模とメンバー数が合っておらず、常に人員不足状態・ 新規のOSSコミュニティが日々ローンチされており、新しいコミュニティの情報入手に手が回らない。		
備考			

OSSコンプライアンス ～組織・体制面～

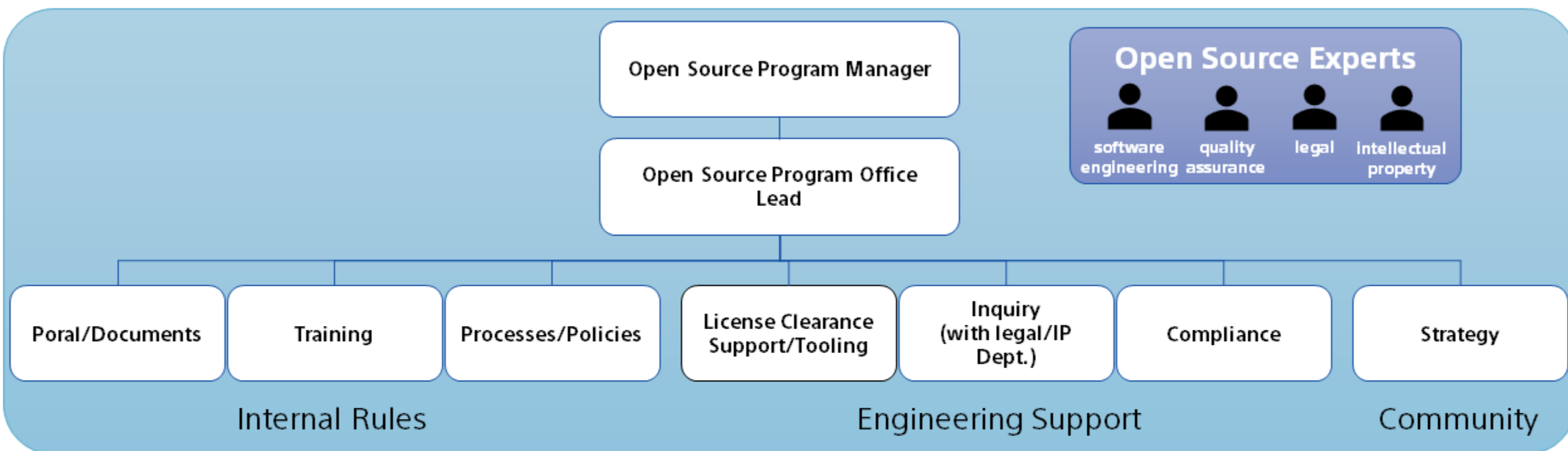
会社名	ソニーグループ株式会社	Web掲載	OK / NG
記載者	小保田 規生	記載日	2024/06/13
現状（記入日時点）			
組織	専属組織あり（OSPO） / 専属組織あり（not OSPO） / バーチャル or コミュニティ型 / 担当者レベル / Alone / 正式な業務として / ボランティアとして（備考: 専属組織と仮想組織の組み合わせ）		
人数	100人以上（備考: 専属組織は各社数名程度）		
当社のポイント	ソニーグループ全体向けの専任組織があり、研修やルール、ガイドラインなどを企画構成し提供。また仮想組織の管理運営を行っている。仮想組織はソニーグループ各社の法務部門、知財部門、エンジニアリング部門、品質保証部門やセキュリティ部門など関係する部門の担当で構成されている。更にソニーグループ各社毎に専任組織、仮想組織が存在する場合もある。		
課題	よりエンジニアリングに近い場所でのコンプライアンス・コミュニティエンゲージメント対応を行うために、オープンソースに対応する組織を階層化してきているが、会社内の組織変更などに追従することが難しい場合があり、情報の集約や確実な情報伝達に課題を抱える場合がある。委員の世代交代をどうスムーズに進めていくか。 仮想組織に所属するオープンソース委員は主にライセンスコンプライアンス対応を担っており、コミュニティエンゲージメントなどに興味を持ってもらうことが難しい場合がある。		
備考	セキュリティ面とコンプライアンス面の双方の観点からのSBOM対応、特に自動化について各社どのように進めていらっしゃるか、情報交換させていただけると嬉しいです。		

ソニーグループのOSS推進体制



Our OSPO - Open Source Program Office

Since 2022



WORK TOGETHER



OSSコンプライアンス ～組織・体制面～

会社名	NEC（NECグループ）	Web掲載	OK / NG
記載者	出村 優太	記載日	2024/06/27
現状（記入日時点）			
組織	専属組織あり（OSPO） / 専属組織あり（not OSPO） / バーチャル or コミュニティ型 / 担当者レベル / Alone / 正式な業務として / ボランティアとして（備考:）		
人数	100人以上 / 数十人 / 10～20名程度 / 数名 / ひとり / ゼロ（備考:）		
当社のポイント	<ul style="list-style-type: none">NECグループ（海外拠点含む）の全社ポリシーとして「オープンソースソフトウェアの取り扱いに関する基本方針」を定義し、グループ全体に対してOSSコンプライアンスを徹底させている。製品・サービス・システム構築等でOSSを使用および利用する場合、OSSに起因するリスク（OSSライセンス、脆弱性、運用リスク）について対応支援できるチームを組織し、NECグループにサービスを提供している。また、ソースコードからOSSを検出しSBOM形式で出力するサービスも提供している。OSSの教育をNECグループへ必須教育として展開している。		
課題	<ul style="list-style-type: none">OSSコンプライアンスの活動の成果として、どのような指標が適切であるか悩んでいる。		

OSSコンプライアンス ～組織・体制面～

会社名	パナソニックホールディングス株式会社	Web掲載	OK / NG
記載者	加藤 慎介	記載日	2024/06/27
現状（記入日時点）			
組織	専属組織あり（OSPO） / 専属組織あり（not OSPO） / バーチャル or コミュニティ型 / 担当者レベル / Alone / 正式な業務として / ボランティアとして （備考: 専任者はいないが技術部門と知財部門で連携した形）		
人数	100人以上 / 数十人 / 10～20名程度 / 数名 / ひとり / ゼロ （備考: 全体的には人数はいるが、各部門事に見ると数名での対応）		
当社のポイント	・ 技術・知財での連携体制 ・ 最終的には各開発部門に裁量はある		
課題	・ ホールディング体制移行や、これまであまりOSSを使っていなかった部門もOSS利用拡大で対応が必要になってきたことなどによる影響があるなか、部門ごとでの対応が中心、この高位平準化。 ・ 長期的な体制・活動の維持 (継続性の確保)		
備考	<div>グループ企業全体で共通化するなどしてメリットを出す部分と、各部門で自事業を鑑みて対応する部分の切り分けや考え方など議論したい</div> <div><div>Panasonic Group（OSS Workgroup）</div><div><div>事業会社(法人) ・ 技術 ・ 知財</div><div>.....</div><div>事業会社(法人) ・ 技術 ・ 知財</div><div>Holdings (全体推進) ・ 技術 ・ 知財</div></div></div>		

OSSコンプライアンス ～組織・体制面～

会社名	サイバートラスト株式会社	Web掲載	OK / NG
記載者	鈴木 崇文	記載日	2024/06/27
現状（記入日時点）			
組織	専属組織あり（OSPO） / 専属組織あり（not OSPO） / バーチャル or コミュニティ型 / 担当者レベル / Alone / 正式な業務として / ボランティアとして （備考:		
人数	100人以上 / 数十人 / 10～20名程度 / 数名 / ひとり / ゼロ （備考:		
当社のポイント	OSPOと同時にChief Open Source Officerポストを作ったので、CxO レベルとのやりとりがスムーズにできており、OSS系のCxOポストを作るのはおすすめです。各事業部からOSPOメンバーを兼務してもらうことで事業部の事情に合わせて動けてます。最近では会社がThe AlmaLinux OS Foundationのプラチナメンバーになり、ボードメンバーを出したり、必要な開発への参加やSBOM ツール開発など、OSPOが存在することで事業部が主体的に活動してビジネス面とコミュニティ面でバランス良く活動できるようになっています。		
課題	まだまだやりたいことが多く、優先度付けながらこなしている状態です。		
備考	OSSコード貢献だけでなく、プロジェクト内での合意形成方法という観点についても最近興味があります。		



THE
FUTURE
OF
TECHNOLOGY
IS
NOW